

平成24年度 3月議会 一般質問

民主フォーラムの堤です。  
通告に従いまして質問させていただきます。

今回の質問は、

複式簿記による公会計について

4項目 〇点

観光戦略プランについて

4項目 〇点

お伺いしたいと思います。

理事者の皆様におかれましては簡潔かつ明瞭な答弁をよろしくお願いいたします。

## 複式簿記による公会計について

複式簿記に基づく公会計について、平成 22 年 6 月議会で取り上げておりますが、この件について再度質問させていただきます。

複式簿記に基づく公会計制度は、昨年の暮れに行われた総選挙の折に維新の会の石原現衆議院議員や橋下大阪市長が「先進国の中で複式簿記の会計制度を取り入れていないのは日本だけである」と仰られて、政策課題の一つとして大きく取り上げられたのでご記憶の方も多いかと思います。

現行の公会計制度は、単純に現金の支出の結果だけを示す、単式簿記と現金主義による記帳を行っています。例えば、1 億円の建物を建設した場合、現在の単式簿記だと 1 億円の支出のみが計上されます。また、1 億円の市債を発行した場合は、本来は負債的な側面もあるにも関わらず、現金が入ってくるという側面だけしか情報として上がらないため、会計帳簿には 1 億円のみが収入として黒字的に計上されます。このように、単式簿記だと資産形成と費用の区分や借入金と収益の区分がないために債務のふくらみや将来的な負担が事前に把握しにくいという欠点があります。

一方で、複式簿記の場合は 1 億円の建物を建設した場合は 1 億円の資本の減少とともに、1 億円分の資産の増加が記載されます。また、1 億円の市債を発行した場合は 1 億円の収入とともに、1 億円の負債の増加も記録され正確な資産状況が把握できるようになります。

総務省は平成 18 年に「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための方針」（地方行革新指針）の中で、「公会計の整備」について人口 3 万人以上の都市を対象に平成 21 年度を目途に取り組みを行うようにとし、本市は総務省改訂モデルを採用して、平成 20 年度決算をベースとした新地方公会計制度に基づく財務書類 4 表の作成を行う等の取り組みを進めて参りました。

これらを踏まえて、前回複式簿記による公会計制度について質問させていただいた折には、複式簿記による会計制度の重要性を本市としてもより強く認識すべきであると求めました。これに対するお答えとしては、複式簿記による会計制度についての重要性の認識は共有するものの、法に基づく要請ではないため、また、内部管理的な部分に予算を費やすよりも政策的な部分で市民に直接還元できる取り組みに重きを置きたいとの旨の答弁をいただきました。

複式簿記化については、改めて国会で議論が再開されましたから、現時点で私は改革の流れを期待して結論を待ちたいと考えておりますが、現状の会計制度のもとでも複式簿記的な考えを持って、例えば新規に公共施設をすることは将来的に維持管理コストの費用を要する負債的な側面もあるとか、資本と収支のバランスを見ることのできる人財を育成していくことは、持続可能な本市の行財政運営の上でも非常に有用であると考えます。

そこで 4 点お伺いいたします。

1. 複式簿記による会計について市長のご所見をお伺いします。特に石原議員や橋下市長の問題提起を踏まえて、前回の答弁より認識に変化があれば教えてください。
2. 本市の財務諸表を経年比較して、どのようなことが見えてくるか教えてください。
3. 一昨年の質問の折にお答えいただいた、ストック情報の整備不良について、現在どのような状況になっているでしょうか。
4. 複式簿記化に対応できる、あるいはそのような観点から事務事業に当たることができる職員を育成するために、研修や資格取得に対して積極的に支援を行うべきであると考えますが、ご所見はいかがでしょうか。

会計は、実務者のためであるとともに、利害関係者に対して財政情報が分かりやすく伝わるものでなければなりません。その点で単式簿記よりも複式簿記の方が優れているのですが、やはり会計帳簿は数字の羅列であり、納税者である市民の中で会計に対する専門的知識を持っている方は少数です。しかし、今後ますます財政状況がひっ迫して行くであろうことは十分に予測されますので、市民の皆様の財政に対する理解を得ていくことは重要な取り組みです。

その観点からすると、数字をグラフ化して目に見える形でこれまでの推移と今後の予測を表すと、非常にわかりやすくなります。このような取り組みは、今年度公共施設対策特別委員会で視察させていただいた神奈川県秦野市さんや、先日会派民主フォーラムでお邪魔させていただいた福岡県田川市さんが先進的に行っております。

また、千葉県の習志野市さんは市の財務状況をより理解して頂くために「バランスシート探検隊」という取り組みをなされています。これは財務諸表のバランスシートを実際に用いて、地元の高校生に千葉大学の学生や市職員が財務状況について教え、帳簿だけでなく現地に赴いて実際に施設や備品がどのようなになっているか共に学んでいく取り組みです。高校生にも分かりやすい資料を作成することを通し、より市民に分かりやすい資料を公表していこうと考えていらっしゃいます。また、若い職員を説明員として活用することで、職員の説明能力や財務状況の理解に対しての研修にもつながります。

本市においても、このように財政状況をより分かりやすく、より積極的に市民に説明していくべきであると私は考えます。

そこで 2 点ご提案します。

5. 財政状況を目に見えるような形で提示した資料を作成することに関してはいかがでしょうか。
6. 市民に財務状況についてより一層の理解を得るために、習志野市のように共に財務状況について学ぶ場を設けてはいかがでしょうか。

## 観光戦略プランについて

次年度より商工観光課の「観光係」が「観光戦略係」へと名称変更がなされると伺っております。前年度は「建設部」が「建設交通部」と名称変更になりました。名は体を表すと言いますが、名称変更は市長の政策の力点がどこにあるのか端的に表れるところですが、建設交通部への改称は本市のまちづくりが、市民の移動手段も含んだソフト面でも手がけていくという姿勢であります。

観光戦略係への改称は、大河ドラマ「細川ガラシャ」誘致に向けた市長の積極的な姿勢の表れであると解釈しております。また、都市と自然が調和した風光明媚なまちであるとともに、歴史的資産が数多く眠っている文化都市である長岡京市であるにも関わらず、観光入れ込み客数に伸び悩み、観光消費額も低い水準で留まっていることに対する市長の問題意識の表れでもあると私は評価しております。

「戦略」という言葉には、「農業戦略」や「商業戦略」あるいは「まちづくり戦略」「財政戦略」のように「戦略」という言葉を付記できる事務事業は多数ありますが、今回、観光にのみ「戦略」を付記なされました。しかも「観光商工戦略課」ではなく、あえて「観光戦略係」としている所に市長の強い意志を感じます。

そこでまずは 3 点伺います。

1. 観光戦略係の立ち上げの意図について教えてください。
2. 「戦略」という積極的な言葉を聞きましたが、他の行政部門とどのように異なる積極的な取り組みを行っていく予定でしょうか。
3. 戦略立案の指揮系統について教えてください。

本市の観光客数は年間 120 万人台で過去 4 年間推移し、観光消費額は平成 20 年が 5 億 4 千 1 百万円、21 年が 5 億 2 千万円、22 年が 5 億 1 千万円、23 年は 4 億 9 千 1 百万円と年々減少傾向にあります。観光客単価も 400 円から 420 円の低い水準で推移しています。この数字のみを見ると観光が本市の活気に貢献しているとはとても言い難い状況です。観光振興はたくさんの観光客に来ていただくだけでなく、たくさんのお金を本市で消費していただいて、本市に活気と潤いをもたらすことが大切であると私は考えておりますし、観光振興に関する過去の一般質問でもそのように主張してまいりました。

ここで 3 点伺います。

4. 観光戦略の具体的中身について教えて下さい。
5. 観光の軸にはどのようなことを想定し、どのような取り組みを展開していく予定

でしょうか。

6. 観光客数と観光消費額の目指すべき数値について教えてください。

観光振興はまちづくりの一つの切り口であると考えています。観光客を相手として商業を活性化したり、観光施設の整備をすることでまちの建設を行ったり、あるいは観光資源を PR することでまちの誇りを醸成したりと、観光振興という一つの事務事業を通してその広がり是多岐に渡ります。

そこで最後にお伺いします。

7. 今後、観光振興をどのように本市の総合的なまちづくりに反映させていくお考えか市長のご所見をお伺いします。